ID注1)	011201	公開ﾚﾍﾞﾙ注1)	B	保管形式注1)	電子	保管場所注1)		前回ID	

報告書名称/調査名称	白神山地世界遺産地域における実態把握等の調査報告書	発行年月/報告年月	2002年 2月
		資料形式注2)	報告書
調査機関	東北森林管理局青森分局	委託機関	財団法人林業土木コンサルタント青森支所
調査開始年	2001年	調査期間	～
調査頻度注2)	― ― ―	調査時期注2)	― ― ―
ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ計画	2012年3月　策定	区分注2)	Ⅲ
大区分注2)	1	小区分注2)	(2) (3)

調査箇所・範囲注3)

☑ 核心地域　☑ 緩衝地域　☐ 周辺地域

☐ GPS等の位置データあり

※周辺地域における調査箇所は備考欄に示す。

目的・調査手法

■調査目的

現行の白神山地境遺産地域の核心地域の入山の取り扱いについては、見直しを前提とした試験的措置であり、かつ、この取り扱いが平成９年６月に決められてから５年目ということなどから「指定ルート」等の実態を調査把握し、今後の取り扱いの参考にしようとするものである。

■調査項目及び調査手法

- 核心地域内の指定ルート、既存歩道等の状況
  横断形状測定、歩道の荒廃状況の概要、荒廃による周辺植生の変化、里山植生の進入状況、キャンプ。たき火、魚釣りの状況等の把握
- 標識類
  標識類の種類、設置位置、現況
- 鳥獣類の生息状況
  各ルート上での野生生物のフィールドサインを探索

結果概要（スペースに収まるように入力してください）

■ルート等の状況

ルートによって濃淡はあるが踏み跡、キャンプ跡、オオバコの分布状況からして、各ルートともかなり古くから人が関与した形跡が残されている。指定ルートを使った登山者がどの程度いるかは今回の調査では明らかにできなかったが、キャンプ跡、踏み跡等が残される程度の人は入っている。

■里植物

里の植物で登山靴などについて人が運び繁殖するとされるオオバコについては、笹内川の流域を除いてほとんど源流部まで確認された。

■キャンプ跡、たき火跡、樹木の伐採など

キャンプ跡、たき火跡は、赤石川流域は比較的多く、次いで追良瀬川流域が多く、笹内川と大川の流域は比較的少なかった。たき火跡はキャンプ跡にはほとんどあり、箇所によってはキャンプをしないでだ機微だけしたと思われる箇所もある。イワナを焼いた焼き串が残されている箇所が何箇所かあった。

樹木の伐採については、新しいものは多くはないが何箇所かで確認された。

■標識類

標識、道標、テープ、ペンキ、落書き、ゴミなどについては指定ルートにおいてはそれほど多くなかった。

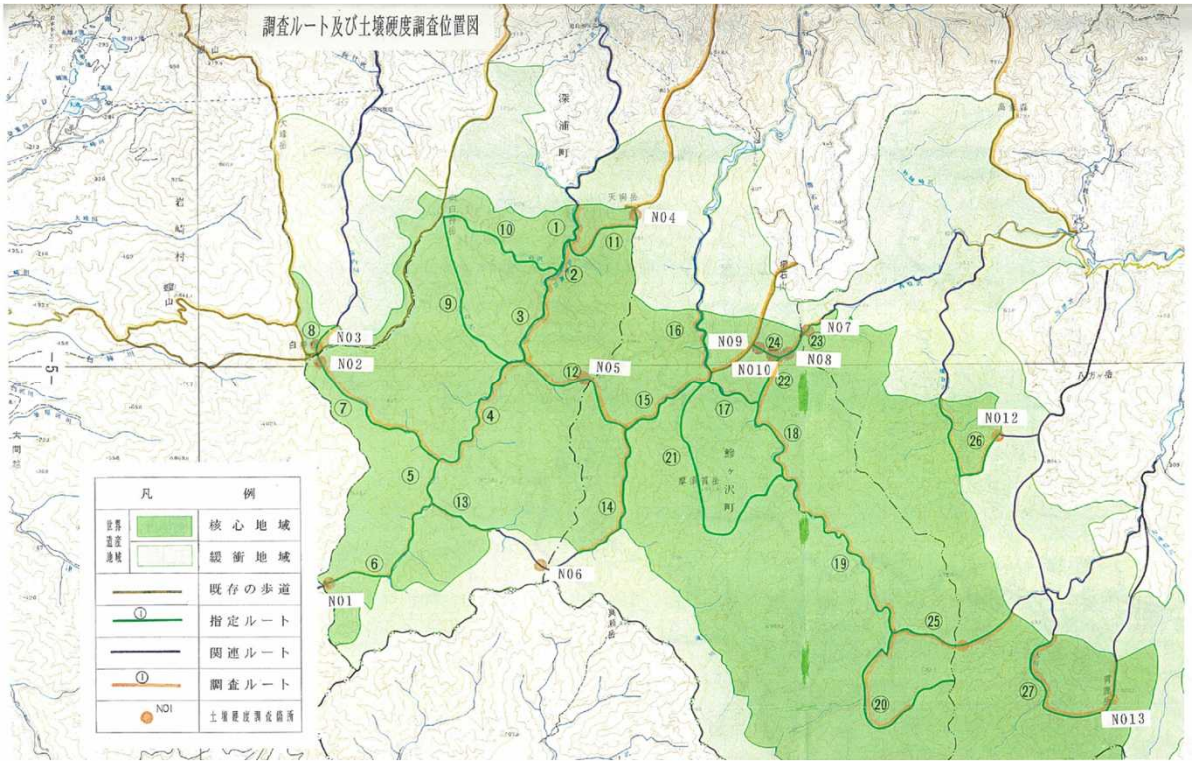
■鳥獣類の生息状況

鳥獣類については、ツキノワグマ、ニホンカモシカ、ニホンザル、トウホクノウサギ、アオサギ、クマタカなどを視認した。イワナについては、各河川とも源流部まで確認された。生息数は３年前の禁漁措置により確実に増えている。

問い合わせ	農林水産省 林野庁 東北森林管理局 〒０１０-８５５０　秋田県秋田市中通5丁目9番16号 TEL:０１８－８３６－２０１４
	≪原本（データ）の帰属について≫

注1）「ＩＤ」「公開レベル」「保管形式」「保管場所」については記入しないこと。
注2）ドロップダウンリストから該当する項目を選択すること。
注3）該当する項目の□をクリックし、チェックを入れる。

備　考


調査ルート及び土壌硬度調査位置図
凡　例
核心地域
緩衝地域
既存の歩道
指定ルート
関連ルート
調査ルート
土壌硬度調査箇所
N01
N02
N03
N04
N05
N06
N07
N08
N09
N010
N012
N013